

ささだいら まんぜ おおなぐら  
 笹平遺跡・万瀬遺跡・大名倉遺跡

所在地 北設楽郡設楽町、小松字笹平、川向字マンゼ、大名倉字下谷・滝ノ下  
 (北緯34度55分25秒 東経137度30分17秒ほか)

調査理由 設楽ダム

調査期間 平成20年10月～平成20年12月

調査面積 200㎡

担当者 宮腰健司・岡久雅浩

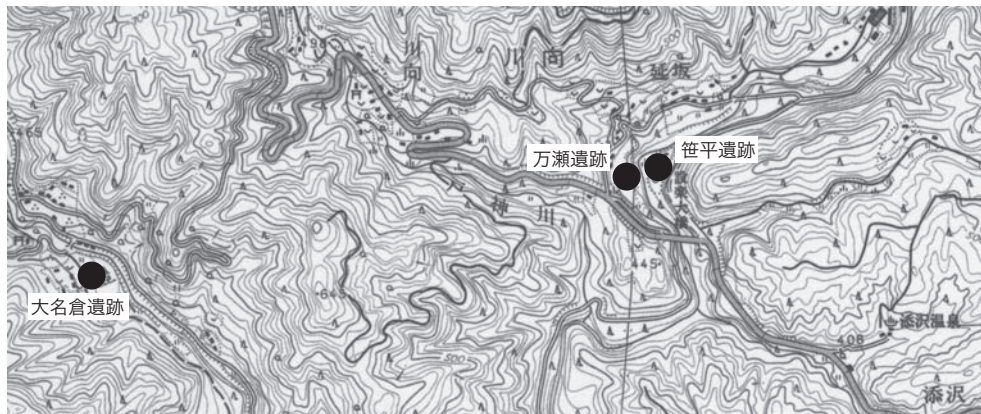
調査の経過 調査は国土交通省設楽ダム工事事務所による設楽ダム工事に伴う範囲確認調査として、愛知県教育委員会の委託を受けて平成20年10月から平成21年1月にかけて実施された。調査では、県教育委員会の分布調査の結果を受け、笹平遺跡26ヵ所、万瀬遺跡33ヵ所、大名倉遺跡41ヵ所のテストトレンチを設定した。

立地と環境 笹平遺跡は標高約388mの境川左岸段丘上の平坦地、万瀬遺跡は標高約395～420mの境川右岸の山麓斜面、大名倉遺跡は標高約428～448mの寒狭川右岸の河岸段丘から山麓緩斜面に立地している。

調査の概要 笹平遺跡では、平坦地のうち居宅周辺の庭及び畑地に設定したテストトレンチ13ヵ所で遺物包含層を確認し、縄文土器・石器などが出土した。また、この範囲では9ヵ所で土坑・溝などの遺構が検出されたが、うち2ヵ所では竪穴建物に伴うと思われる焼土も認められた。遺跡は、笹平の平坦地の北部、現在の居宅周辺から南西側に広がると考えられる。

万瀬遺跡では、県道小松・田口線下位の谷地形内の耕作地に33ヶ所のテストトレンチを設定したが、遺物の出土はほとんどなく、明確な遺構や遺物包含層は確認されなかった。ただし、調査地北側の畑地内では灰釉陶器・山茶碗の破片や石器片などを多く表採することができることから、遺跡はより斜面の上部に展開している可能性が考えられる。

大名倉遺跡の調査地は、上位の山麓斜面末端の居宅周辺の耕作地、中位の河岸段丘上の水田地、下位の河岸段丘下の水田地の3区域に分けられる。このうち、上位の山麓斜面末端の耕作地に設定したテストトレンチの中で、小谷より北側の9ヵ所ではほぼ共通する遺物包含層が確認され、縄文土器・石器などの遺物が出土し、一部では土坑などの遺構も検出された。これ以外の区域では、まれに縄文土器の細片などの出土があるものの、明確な遺構や遺物包含層は確認されなかった。遺跡は山麓斜面北側を中心に展開するものと考えられる。(岡久雅浩)



調査地点 (1/2.5万「田口」)